資源環境経済学特別演習Ⅱ　議事録
2013年度　第3回

報告題名： 東松島市大曲地区の農業復興の課題			
報告者	渥美　敦順	日時	6月13日　午後3時～
所属分野	農業経営経済学分野	場所	第2講義室
座長	井上　晋平	議事録担当者	西田　陽平

出席者

長谷部、木谷、小山田、盛田、米澤、米倉、冬木、伊藤、石井、鈴木、水澤、大友、スチン、タンボウニ、山口、カライ、ナスン、趙、今井、Belly、Cahyo、Tomi、Heldi、井上、佐々木、志賀、西田、朴、オウ、渥美、伊藤、江守、小田嶋、金、藤井、武居、畠山

報告要旨

震災から2年余りが経ち、着実に宮城県の沿岸部から復興の足音が聞こえており、農業分野でも国や県が定めた復興計画に沿った形で復興が進んでいる。

今回対象とした宮城県東松島市大曲地区は、私が生まれた地であり、震災によって甚大な被害を受けた場所であり、震災が起こる前から、農業の構造的問題を抱えた地区であった。震災前に計画されていた圃場整備計画の概要と震災後の計画では、どのような変更が生じたのか。また、震災復興の計画に沿うことで大曲地区が今後も存続していくことが可能なのかを検討してみたい。

本報告では、大曲地区の震災前と震災後の圃場整備計画がどのように変わったのかを追うことにより担い手像や農地集積が変化したのかを示す。そして、震災を受けて、大曲地区で営農していた農業者を対象にしたアンケート結果を踏まえ、農地の有効的な集積を明らかにする。また、震災により立ち上がった法人が大曲地区の農地の受け皿となり、その地域における営農を担うことになる。その法人の営農展開を線形計画で分析し、担い手を育成できる雇用かどうかを確認する。

質疑・応答

井上：スライド 11、震災による計画の変化のところで、変更前と変更後の農地面積が約 1.5 倍ぐらい増えたことが描かれている。其の背景は何か。

渥美：それは震災によって津波を被った地域が多かったので、補助整備を行われる前よりも、それを含めて大規模化しようという計画になったので、1.5 倍にはいかないが、農地が 108.5 から 142.4ha に大規模な面積に増えた。

井上：農地を大規模化した後の効果はどのぐらい出たか。

渥美：まだ計画の段階であり、全面的に終わっていないため、効果は分からない。

米澤：震災後から水田面積が増えたということが書いてあったが、その根拠、或いは見込みがあれば、教えて欲しい。理想的にその通りに行くのかなと疑問。

渥美：根拠が分からないが、パルファームに聞いたところその通りにしていくと言っていた。震災後に離農が進んだので農地が集積すると思われる。

米澤：例えば、水稲面積は 4 倍に増えるとされているが、そこまで増えるか。

渥美：難しいと思うが強い決意のもとに集積させるらしい。

伊藤房：今のやり取りに関して、そういう話ではないのではないか。集積ではなく、圃場整備の問題であり、今後大曲地区はパルファームで大部分担うので、圃場整備に伴って集積したいということだろう。スライド 11 で震災前に圃場整備の計画があったが、震災後に新たに計画がスタートしたが、震災前の圃場整備の費用がかかっていた。その費用はどのような扱いか。

渥美：すでに工事をした分は費用を負担する。約 1000 万円ほど。

伊藤房：1000 万というのは？

渥美：土地改良区の方に聞いた。

伊藤房：この 1000 万は、何人の受益者で、面積はどの程度か、など調べないと。

長谷部：これはパルファームで全てまかなえるということか。そこで圃場整備をして、規模拡大して、担い手にした計画を作りたいということか。

渥美：そうです。

木谷：どうして農業経営に行政・研究者がタッチするのか。他業種ではこんなことをしない。

渥美：おっしゃるとおりだが…、

木谷：あなたの考えを聞きたい、卒論とやっていることも変わっているし。

渥美：言いづらいことがあるので、後で個別に言います。

米倉：生産計画で、経営費に減価償却費は入っているのか。

渥美：はい。

米倉：損益分岐点が 6 億 9 千万というのはこれだけ稼がないといけないのか。企業の解散点はどこか。計算してあるのか。

渥美：分かりません、甘かったです。